

# 安寧



東屋から社殿

兵庫縣姫路護國神社社報  
 「安寧」第二十五号  
 発行所 兵庫縣姫路護國神社  
 〒650-0033 姫路市本町二一八  
 電話 〇七九-三三四-〇八九六  
 安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なこと

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

## 英霊の言乃葉

### 両親と面会

海軍大尉 安達卓也 命

神風特別攻撃隊第一正気隊  
 昭和二十年四月二十八日  
 沖繩方面にて戦死  
 兵庫県出身 二十三歳

遙かな旅の疲れの見える髪と眼のくぼみを、私は伏し拝みたい気持ちで見つめた。私の為に苦勞をかけた老いが、父母の顔にありありと額の皺にみられるような気がした。何も思う事が云えない。ただ表面をすべっているにすぎないような皮相的な言葉が二言、三言口を出ただけであり、刺へ思う事とは全然反対の言葉すら口に出ようとした。ただ時間の歩みのみが気になり、見つめる事、眼でつたわり合う事、眼は口に出し得ない事を云って呉れた。

母は私の手を取って、凍傷をさすって下さった。私は入団以来始めてこの世界に安らかに憩い、生れたままの心になってそのあたたかさをなつかしんだ。私はこの美しい父母の心温い愛あるが故に君の為に殉ずることが出来る。死すともこの心の世界に眠ることが出来るからだ。僅かに口にした母の心づくしは、私の生涯で最高の美味だった。涙と共にのみ込んだ心のこもった寿司の一片は、母の愛を口移しに伝えてくれた。

「母上、私の為に作って下さったこの愛の結晶をたとえ充分戴かなくとも、それ以上の心の糧を得ることが出来ました。父上の沈黙の言葉は、私の心につかりと刻みつけられています。これで私は父母と共に戦うことが出来ます。死すとも心の安住の世界を持つことが出来ます。」私は心からそう叫び続けた。

戦の場、それはその美しい感情の試煉の場だ。死はこの美しい愛の世界への復帰を意味するが故に私は死を恐れる必要はない。ただ義務の完遂へ邁進するのみだ。

一六〇〇、面会時間は切れた。再び団門をくぐって出て行かれる父母の姿に、私は凝然として拳手の礼を送った。

(昭和三十八年三・四月靖國神社杜頭掲示)



# 秋季例大祭 十一月二日

疫病を清め流すような秋霖の中、定刻十時  
三十分の号鼓とともに宮司以下奉仕する神職、  
大祭委員長（総代会長三木英一氏）崇敬奉賛会  
会長三宅知行氏が参進し、祭典が始まった。

修祓の後、海川山野の神饌を捧げ、茶道裏  
千家淡交会播磨支部による献茶、宮司祝詞奏



宮司以下列拝

上と続いた。玉串奉奠は宮司以下祭員が併せて行つた後、三木大祭委員長、三宅崇敬奉賛会会長に併せて参列者が参拝した。姫路市民合唱団による合唱奉納は新型コロナウイルス感染防止の為、中止された。

宮司は挨拶で日本各地の祭礼は疫病と深く関りがあり、疫病神を祀り、もてなし、鎮めてお帰り頂く疫病祭が古くから行われてきたことに触れつつ、日本の道徳観や条理は自然とともにあり、私たちに受け継がれた命に対する感謝こそが神を敬う心だと説いた。また、英霊の生前を直接知る、あるいは生前を知る



玉串奉奠



献茶の儀

祭典受付は毎年姫路郷友会（会長 福本正明氏）の方々が奉仕している。

方からの話を聞いた方々は時間とともに少なくなるが、国家・家族を守るうとした御心を私たちは受け継ぐことができ、私たち子孫の務めは明治以来の戦役、事変、戦争という国家の受難の時代に生まれ、殉じられた方々を讃えることであると述べた。いままさに初春以来の国難の時を迎えているが、国難に立ち向かわれた英霊の大御稜威をいただき苦難を心ひとつに乗り切りたいと結んだ。



宮司挨拶

コロナ禍でのお正月  
新年万燈祭 一月元旦〜十日



鳥居前注意喚起看板

感染防止の厳戒態勢の中お正月を迎えた。天候には恵まれたが、参拝者は大幅に減少し、昨年の三分の一程であった。感染症対策として各所にアルコール消毒液が設置され、手指消毒を促すとともに手水舎は流水での対応、鈴の緒は使用禁止となっていた。

また三密を避けるため、賽銭箱は横長に広く設置され、おみくじは引く場所と渡す場所が分けられる等工夫がなされていた。

そのような中でも変わることなくご遺族崇敬者ご奉納の神前献灯二〇〇〇灯が境内一面に飾られ、ご高齢のご遺族が奉納された提灯の場所を、孫やひ孫の方と探されるほほえましい姿やご英霊の提灯の前に思いを馳せ、涙ぐむ姿が印象的であった。



正月拝殿前

崇敬奉賛会 新年祈願祭

一月十一日(成人の日)

崇敬奉賛会新年祈願祭は毎年成人の日に行われる。本年は感染の急激な拡大を受け、緊急事態宣言の再発令を政府に要請する中での祭典となった。

拝殿は十七名に参列を制限、それ以外の参列者は拝殿前石畳にテントを張り、間隔を空けての異例の態勢であった。祭典は午前十一時に斎行され、三宅知行会長以下五十五名の参列者は国家の安泰、護國神社の隆昌と崇敬



正月授与所

奉賛会の発展、會員の健勝を祈った。尚、直会は感染防止の為、中止された。



▲拝殿内参列



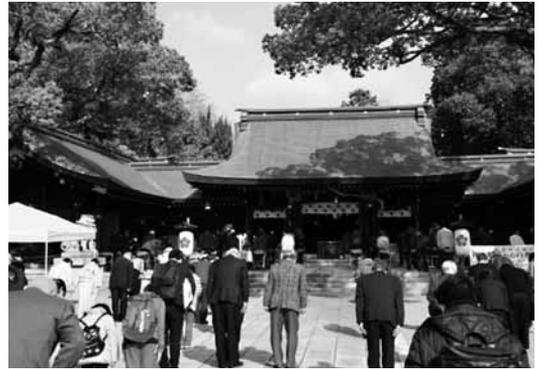
◀拝殿前石畳での参列

# 建国祭

二月十一日(建国記念の日)

姫路郷友会、霊友会、隊友会、日本会議の四団体からなる「建国を祝う会姫路実行委員会」の主催の下、紀元二千六百八十一年を祝う建国祭が、斎行された。

本年は緊急事態宣言下により、講演会は中止であったが、参加者は百名を超えた。



拝殿前参列

会の辞を述べ、副会長 天田博子氏の先導で檀原神宮を遙拝した。

その後、副会長 福本正明氏の音頭で万歳三唱、副会長 三枝副三氏が閉会の辞を述べ、式典は幕を閉じた。国歌斉唱、「紀元節」の歌は感染防止の為、CDを傾聴した。式典終了後、神社からはお餅のお下がりが配布され、参加者は、其々の想いを胸に建国の日を有意義に過ごした。



聖寿万歳

森厳な雰囲気  
が漂う中、午前十一時より神事が執り行われた。続いて、境内で奉祝式典が行われ、実行委員会委員長 三木英一氏が開

# 天長祭

二月二十三日(天皇誕生日)

姫路護國神社では、総代、崇敬奉賛会会員、一般の方併せて四十一名とともに奉告祭を斎行、陛下のお誕生日を祝った。尚、感染予防の為、直会は中止された。

# 神前奉納

令和二年九月二十一日

賢明女子学院高校書道部員が世界平和や新型コロナウイルス早期収束の願いを込め、神前に揮毫を奉納した。

平和活動に取り組む「和プロジェクト T A I S I」は国連平和デーである九月二十一日に併せ全国護國神社に揮毫奉納を呼び掛けて五年目(五回目)となる。

当日一年生四



名は、部員で相談して決めた「安寧」「憎しみ」とあるところに愛があるように。暗闇あるところに光があるように」の文字を手分けして力を入れて神前で揮毫した。書く文字を決めてから当社の社報が「安寧」であることに気づき部員たちは驚いていた。

### しめ縄奉納 令和二年十二月八日

拝殿のしめ縄が三年ぶりに交換された。市川町甘地地区の「香年会」の方々が神社のしめ縄奉納をされて今回で三回目となる。

十二月八日早朝十名の方々が大型トラックで運ばれた重さ約百キロ 長さ八メートルのしめ縄を担ぎ、二時間近くをかけて梯子を使い架け替えた。

同会は出雲大社の保存会から編み方を学び、地元で育てた稲わらと餅米のわらを使い、一か月以上かけて完成させた。



### 俳句・川柳・短歌の投稿発表

皆様から寄せられました俳句・川柳・短歌を掲載いたします。

初詣 万灯祭に 父しのぶ

(姫路市・前川祐助・七十八歳)

初春に 姿を変えた 英霊が

集いて並ぶ 護国の庭に

(相生市・前川郁典・七十八歳)

提灯に 亡兄の名探す お元日

(神崎郡・石川晃美・九十三歳)

英霊に 感謝のまこと 万灯祭

(姫路市・村田定克・六十九歳)

砂利の音 響く万灯 安寧を

(姫路市・磯部香代子・六十八歳)

灯の下は 御国に平和の 贈り物

(姫路市・曾田孝一郎・七十九歳)

初夢は コロナ鬼滅の 巫女の舞

(姫路市・曾田孝一郎・七十九歳)

とはの世も 提灯の灯や あたたかし

(神戸市・澤浦武雄・六十八歳)

万灯で 暗いコロナ 吹っ飛ばせ

(明石市・黒田實・九十二歳)

清らかに 桜舞い散る 万灯祭

(姫路市・桔梗・四十五歳)

華やかに 祭りの顔よ 提灯は

(西宮市・加納和子・八十八歳)

献灯で 今年も会える 父や祖父

(神崎郡・内藤政義・七十八歳)

父を偲ぶ 七十七 回忌祭

(川西市・楽星・八十二歳)

ご応募いただきありがとうございます。

尚、兵庫縣姫路護國神社では、新年万灯祭の献灯案内とともに引続き「俳句」「川柳」を募集しております。

## 新年万灯祭

### 献灯のお願い

毎年一月一日から一月十日の間

新年万灯祭を行っています

ご神前に献灯し

神の庭を明るく照らし

心安やかに、心安らかに

新しい年を迎えられますよう

神前献灯に是非お申し込み下さい

献灯初穂料 一灯 一万円

申し込み期間 十一月末



シリーズ 英霊の戦場(六)

淡路島出身

樋口季一郎陸軍中将の功績



第5方面軍司令官就任時の樋口季一郎中将

樋口中将の功績を二回に分けて紹介します。今回は約五千名のユダヤ難民救済とキスカ奇跡の撤収で約六千名弱の将兵を救った実績から聖将と称された将軍を紹介します。

樋口中将の生立ち (年代を西暦で標記)

一八八八年(明治二十一年)八月二十日、兵庫県三原郡阿万村(現、南あわじ市)で奥濱季一郎として誕生。片道二時間で通学した小学校を首席で卒業する。

一九〇一年 私立尋常中学鳳鳴塾入学(現兵庫県立篠山鳳鳴高等学校)。軍人志望者の名門校。

(第一回戦士の証言で講演され、零戦・紫電改を操って本土防空戦に活躍された故笠井智一氏も

本校卒業生、令和三年一月亡)

一九〇二年 大阪陸軍地方幼年学校。

一九〇五年 中央幼年学校(東京市ヶ谷、後に士官学校予科)入校。勤勉性を見込まれて叔父の樋口家に養子となる。

一九〇九年 陸軍士官学校卒業 少尉。

一九一八年(大正七年) 陸軍大学校卒業。

一九三七年(昭和十二年) 少将 極東ユダヤ人大会での祝辞の内容が問題となる。

一九三八年 ユダヤ難民救済を示唆。

一九三九年 中将 第九師団長 満洲で警備。

一九四二年 北部軍司令官(日本軍が現に占領している島や住民が居る島の防衛任務)

一九四三年五月二十九日 アッツ島玉砕。

七月二十九日 キスカ島撤収を成功。

一九四四年 第五方面軍司令官(日本国土防衛を

五区画して北方区画の防衛任務)

一九四五年八月九日 対ソ作戦重視を発動。

八月十一日 ソ連軍は北海道占領目的で

南樺太に侵略、住民避難を重視した侵攻阻止作戦

を発令。

八月十八日 ソ連軍占守島上陸、同島守

備隊に反撃を発令。ソ連軍の損害甚大。

一九四六年ソ連はA級戦犯に指名するも米国が拒否。

一九七〇年十月十一日 死去 享年八十二歳。

ユダヤ難民救済

一九三七(昭和十二年)年 ハルビン特務機関長

十二月、極東ユダヤ人大会(ユダヤ人も満洲建国に貢献すべきとの主旨)の祝辞が問題に、ハルビンの「ユダヤ時報」他欧州の各新聞にも掲載された。昭和十一年十一月 日独防共協定が締結されていたため、ドイツ国から「ユダヤ政策に反する」と日本政府は厳しい抗議を受ける。日本政府は樋口少将に嚴重注意したとして回答。樋口少将は人種差別等問題のある国の政策に同調すべきではないと外務省に「理不尽な要求には断固拒否すべき」と意見具申。

一九三八年三月 満洲国境のソ連領オトポール駅(現ザバイカリスク駅)に多数のユダヤ難民が蟻集、満洲国が受け入れを拒否(オトポール事件)。樋口少将は特務機関長の権限である「満洲国内面指導」の一環として同国外交部と協議、入国を認めるよう進言し、衰弱した約五千名全員を入国させる。以降少数難民が到着、八月の転勤(独国抗議への対応策)まで約二万人(推定)を入国させた。

特務機関長後任の秦彦三郎大佐も樋口少将の意思を引き継ぎ、到着した難民を入国させ、ユダヤ教会では約二万人の人々が救われたと証言している(但し正確な人数は不明)。尚、難民達には日本経由で南北アメリカへ亡命。

転勤時、極東ユダヤ人評議会送別の辞(抜粋)

「全てのユダヤ人は、真理と正義、人道によって飾られた樋口少将の業績を忘れません。日出ずる国の国民と政府の真の代表者として、平和と

人々の友情を模索されました。貴方は高潔な道徳の士として、世界に離散したユダヤ人の魂と切望、高い文化と道徳を理解されました。貴方の栄光に満ちた名前は『ゴールデン・ブック』に記入されるでしょう」

\*ゴールデン・ブック：ユダヤ人の保護・発展に著しく貢献した人名帳

## 二 アッツ島守備隊は救援放棄で玉碎

日本陸軍史上、最初の玉碎部隊となったアッツ島守備隊の悲劇は軍歌にもなっており知られている。昭和十八年五月十二日米軍が上陸、守備隊長山崎保代大佐は速やかに援軍を要請し、樋口中将は増援部隊を編成して待機していた。然し陸海軍はガダルカナル島奪還に全力を注いでおり、両軍は十日間議論しても増援の方策が立たず、終にアッツ島放棄を決定。天皇陛下は苦渋の奉勅命令を伝達。山崎大佐は五月二十九日「天皇陛下万歳」の電報を最後に部下一五〇名と共に散華された。玉碎将兵は二五〇〇余名、米軍は戦死五五〇〇人、戦傷一四〇〇人、戦闘不能一五〇〇人と予想以上の損害を出し、キスカ奪回作戦を慎重にさせた。戦後、戦場画家から頂いたアッツ島の絵と玉碎した将兵の名簿表を玄関に掲げ、朝夕冥福の祈りを一日も欠かさず実行された。

## 三 キスカ島奇跡の撤収

五月二十五日 キスカ部隊の撤収が陸海軍一致し、

七月八日 第五艦隊（艦隊指揮官、木村昌福少将）は強行撤収を決めて出撃、アッツ島西南方面で敵艦隊と遭遇。然し、敵艦隊が見えないのに射撃を受け、発射方向に接近しても逃げられ、決戦にならず（敵はレーダー射撃）引揚。作戦は濃霧を利用しての隠密撤収に切換え、木村少将は濃霧の発生する七月二十六日を撤収の好機と判断。撤収時間は五〇分間で五八二三名、撤収の要件は「武器の放棄」と樋口中将に進言し、「放棄了解」を独断で同意して成功させた。

戦後米軍指揮官から「成功の要件は？」と聞かれた中将は「アッツ島英霊のご加護」と断言して、指揮官を納得させた。



キスカ奇跡の撤退作戦を指揮した木村昌福（まさとみ）海軍少将

今回は終戦後も北海道占領を企むソ連軍に断固拒否した経緯を紹介し、国際政治の非情さを説明し、国の安全保障を考えて頂きます。

### 参考文献

- 樋口季一郎回想録 著者 樋口季一郎
- 樋口季一郎の遺訓 著者 樋口隆一
- 防衛省戦史叢書「北東方面陸軍作戦」編

（文責 崇敬奉賛会理事 曾田孝一郎）

## 樋口季一郎陸軍中将関係地名図



# 崇敬奉賛会会員募集

日本のために戦ってくれた

英霊を大事にしたいと思う人

先祖を敬う心を持っている人

見えないものを受け継いで

いきたいと思う人

奉賛会に入会して神社を

支えて下さい

我々と共に英霊に感謝し

そして汗をかき、

涙を流しましょう

奉賛会事務局

〒670-0012

兵庫県姫路市本町118

電話 079-224-0896

<http://www.himeji-gokoku.jp/housankai/>

## 季節限定御朱印 頒布のご案内

姫路護國神社では、二ヶ月に一度、季節の花に万葉集の歌をのせた御朱印（参拝証）を授与所にて頒布しております。季節とともに参りした時を振り返ってみては、如何でしょうか。左記は令和二年に頒布した御朱印です。（初穂料800円）



(七月・八月)



(二月・二月)



(九月・十月)



(三月・四月)



(十一月・十二月)



(五月・六月)

## 新型コロナウイルス感染症 感染予防の対応

### 春季例大祭について

令和三年五月二日(日)

午前十時三十分斎行

神社と致しましては恒例の祭典でありますので、神事は必ず斎行致しますが、規模を縮小し時間を短縮して執行致します。

緊急事態宣言が解除されましたが予断を許しません。昨年の秋季例大祭と同じくご参列席は、距離をとって設営を致します。

ご参拝の方々はマスク着用の上、手の消毒をしてご参列下さい。体調の思わしくない方は、ご遠慮下さい。